

♪♡ひととき コーナー♡♪

こんなたのしい詩をみつけました。

手で拍子をとりながら歌ってみてください。

つくつくづくし

お正月には もちをつく

子どもたちなら まりをつく

追い羽根小羽根 羽根をつく

お寺じゃ坊さん 鐘をつく

病気になったら 床につく

重い患者にや医者がつく

転んでけがすりゃ 傷がつく

足が悪けりゃ 杖をつく

試験できれば 点がつく

学べば知識は身につくが

威張った態度がはなにつく

点取り虫と あだなつく

よござんすかと 席につく

サイコロ振ったら 勝負つく

やりなおしだと けちがつく

儲けるつもりが 高つく

庭の梅の木 つぼみつく

隣のむすめは 色気づく

いとしい人から 手紙つく

胸に熱い火 ぽとつく (藤田浩子 作)

++♡私たちも作ってみませんか!

ふだんよく使っている「ことばづくし」。

例えば、「かく」「みる」等で♡

♡♡文庫あれこれ♡♡

◆寒中お見舞い申しあげます。さむいですねえー。こんな晩は一杯飲んでお湯にあたたまり、布団に入るのがエコライフ。それなのに私ときたら、床暖つけてエアコンつけて頭ひねって文庫だよりを作っています。国賊!◆先週大島に行ってきました。いつも見ている大島から対岸の大室山なぞ見たいと思って。でも、天候わるく雲と霧に阻まれました。そして大島はここから見るのが一番と知りました。◆お正月三が日を使って母屋に残っていた本を整理し、まだ読んでいただけそうなものを文庫に運んできました。おおいお披露目させていただきます(いくぶん、とうが立っておりますが)。◆暮れのクリスマス会では、

文庫おはなし勉強会のメンバーがデヴューしました。みんなそれぞれの持ち味を生かして心をこめて語ってくれました。いい語り手が育ちそうです!◆クリスマス会には、会員のIさんが子どもたちにお菓子の家(写真)をつくってくれました。感謝です。今年もみなさんにここ沙羅の樹文庫が、本と人の爽やかで楽しい出会いと交流の場になりますよう、努めたいと思います。よろしく願いいたします。◆それには、健康を維持することです。Mさんに教えていただいた「紅茶にしょうが」、今や世間でブームになりつつありますが、励行しています。◆先月号の書評を書いてくれた重田ちひろちゃんの漢字が違っていました、お詫びして訂正します。知洸(ちひろ)ちゃんでした。(西村)



☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆2月は16(土)、17(日)の両日です。
- ◆3月は15(土)、16(日)の両日です。
- ◆文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時
- ◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。
午前10:30～11:00
- ◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日ではなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会

- ★毎月、文庫の前日の金曜日午後2:00から。
- ★2月は都合により15日(土)午前です。
- ★関心のある方はご連絡ください。

沙羅の樹文庫だより

No.17

(2008年1月号)



しずかな冬の日

私はひとり日向の縁側で 遠い山に向かっている
 山は父のようにきびしく正しく
 また母のようにやさしい
 山をじっと見つめていると
 何か涙ぐましいものが湧いて来る
 そして心はなごみ澄んで来る
 しずかな冬の日
 私ひとり縁側で暖かい日を浴びて
 遠い山に向かっている
 「山への思慕 田中冬二(作)」

新たな年が始まりました!

今年はどうな本に出会えるでしょう
 今年も沙羅の樹でよい時間を一緒にできますよう

紹介 子どもの本 おとなの本

バムとケロのにちようび

(島田ゆか作・絵 文溪堂 1994)

すごいあめのにちよう日、バムとケロは、サッカーもすなあそびもできません。そこで、え本をよむことにしました。ケロはいつもおへやをよごします。それをバムがかたづけします。やっとかたづけて、おふろに入ります。そのおふろは足があって犬みたいな足です。おふろからあがってドーナツを二人でつくります。つくる時、水中メガネをしながらつくる場所がおもしろかったです。

バムとケロのおうちのやねうらべやには、え本がたくさんあります。かえね(楓音)のおうちには、やねうらべやがないので、学校やさらのき文こで、え本をかります。

バムとケロはドーナツをたべながら、やっとえ本をよみます。かえ音も、にちよう日はたくさんのえ本がよめるのでだいすきです。(伊藤 楓音)

※みんなの大好きなバムケロの本には、ほかにバムとケロのおかいもの バムとケロのさむいあさ バムとケロのそらのたびがあります。みんな文庫にあります。

★かえねちゃんは2年生。弟のふうちゃんの面倒をよくみる元気でやさしいおねえちゃんです。漢字もたくさんおぼえましたね! ☆

たくさん寄贈
いただきありがとうございました。
田中裕子さん
(グランママ社・絵本の樹美術館)
山本英博さん ほか皆さま

新刊・新入庫の本

子どもの本

絵本

『14 ひきのもちつき』(いわむらかずお作 童心社 2007)

14 ひきのねずみシリーズ久々の続編です。

『エドワルドーせかいでいちばんおぞましいおとこのこ』(ジョン・バーニンガム)作 千葉茂樹訳 ほるぷ出版 2006) どこにでもいる男の子(女の子)子どもは共感し、おとなはわが振りを反省?

『絵本 かがやけ・詩 どっさりのぼく』(小池昌代編 太田大八絵 あかね書房 2007)子どもに読んであげましょう、いっしょに声を出して読みましょう、そしてお話ししましょう。

読みもの

『イーゲル号航海記1 魚人の神官』(斎藤洋著 コジマケン絵 偕成社 2007)最初の1ページでわくわくしてくる冒険談。

『凧九郎②父の秘密』(吉橋通夫作 講談社 2007)第2弾。YAの人たちが軽い気持ちで手に取れる本なのだけれど……。

※この他まだ未整理の本がいっぱい、来月は棚にならばますね。

おとなの本

読み物

『トラヤ』(南木佳士著 文藝春秋 2007)

エッセイ。猫でいやされたおはなし。阿弥陀堂だよりの著者。

『仏果を得ず』(三浦しをん著 双葉舎 2007)

“好き”が過ぎるとバカになる。でも、そんなバカならなってみよう。文楽に賭ける若手大夫の熱い青春の物語。

『商人龍馬』(津本陽著 日本経済新聞社 2007)

「経済立国」をめざした坂本龍馬。その「起業家精神」が日本を変えた! 大転換の時代を見抜き、開国日本の前途を構想。海外交易で雄飛することを志した悲壮の風雲児。謎多き英傑の真の正体に迫る。

『海坂藩大全 上下』(藤沢周平著 文藝春秋 2007)

藤沢作品の原点・海坂藩を舞台にした全短篇21作を集成した愛蔵版。上には、「暗殺の年輪」相模守

は無害」「唆す」「潮田伝五郎置文」「竹光始末」など10篇を収録。

『宮本輝 全短編 上下』(宮本輝著 集英社 2007)

ひそやかに灯る、いのちのあかるさ。代表作から単行本未収録まで、宮本文学のエッセンスが凝縮した全短篇39作品を収録。上巻は、泥の河、螢川、夜桜、幻の光、こうもり、寝台車、不良馬場、火ほか全15篇を掲載。下巻は、力、五千回の生死、アルコール兄弟、復讐、バケツの底、紫頭巾ほか全24篇を掲載。

『魔法の種』(V.S. ナイポール著 斎藤史訳 岩波書店 2007)「自分の居場所」を求めて旅を続けてきたウィリー・チャンドランは、ふたたび真の生き方を見出すべく故国インドに戻り、ゲリラ活動に身を投ずる。人生の「魔法の種」を求め精神の流浪に、はたして終着の地はあるのだろうか?

『オン・ザ・ロード(世界文学全集1-01)』(ジャック・ケルアック著 青山南訳 河出書房新社 2007)

西部の太陽の子、輝けるディーンに引っ張られるように、若い作家サルは広大なアメリカ大陸を横に縦に疾駆する。ビート・ジェネレーションを代表する不滅の青春の書が、半世紀ぶりの躍動感あふれる新訳で甦る。

エッセイ・ノンフィクション

『戦後日本は戦争をしてきた(角川 one テーマ21)』(姜尚中 小森陽一著 角川新書 2007)

『暴走老人!』(藤原智美著 文藝春秋 2007)

『疲れしない生き方』(谷沢永一著 PHP 研究所 2007)

寄贈本から

『日経 五つ星の美術館』(日本経済新聞社)

『大東亜戦争の実相』(瀬島龍三著 PHP 研究所 1998)

『文明の衝突』(サミュエル・ハンチントン著 鈴木主税訳 集英社 1998)

『毛沢東秘録 上下』(産経新聞社)

『小説石原莞爾 英雄の魂』(阿部牧郎著 祥伝社 2001)

『ノモンハンの夏』(半藤一利著 文藝春秋 1998)

※今回は男性に関心ある本が集まりました。